



仮設小屋で浅井さん  
(中央)を囲み、笑  
顔を見せるネパール  
・サンマトル村の被  
災住民

# ネパール支援 広げたい

## 来月2日 被災状況、前橋で報告

4月に大地震が発生したネパールの復興を支援しようと、7～8月に被災地を調査したNPO法人自然塾寺子屋(甘楽町上野)の浅井広大さん(26)が10月2日、前橋市昭和町の群馬大医学部保健学科で被災状況を報告する。浅井さんは「現状を多くの人に知ってもらい、募金など支援の輪を広げていきたい」と話している。

浅井さんは2013年1月からことし1月まで2年間、国際協力機構(JICA)海外青年協力隊の村落開発普及員として、ネパールの首都カトマンズから北東に約100キロのシンドパルチヨーク郡メラムチ村を拠点に活動した。帰国から3カ月後に大地震が起き、被害が最も大きい同郡

の約4千人を含む約8700人が亡くなった。

大震災後、協力隊と一緒に活動した同郡サンマトル村の若手キッチン農家とフェイスブックで連絡を取った。自

分にできることはないかと、7月中旬から1カ月間、同郡やカトマンズの被災状況を確認してきた。

カトマンズの復旧は進むが、村落部は大半の建物が倒壊したままで、住民はトタンやビニールで覆った牛小屋などで生活していた。

夏の暑さを防ぐため、稲わらを載せたトタン屋根が腐って雨漏

りし、保存食料を駄目にする悪循環が起きているという。一方、厳

つもりだ。報告会は午後4時20分から。同大の森淑江教授の授業を使い、JICA群馬デスクの協

力でも一般にも公開する。先着45人。参加無料。問い合わせ、申し込みは自然塾寺子屋(0274・74・700274・74・70069)、メールhirao.asai@terrakoya.or.jp)へ。